# キラリ天草人

## 牛深朝市会（牛深町）

問牛深朝市会事務局 ☎73-4801

## 牛深のうまかもんと おもてなしば楽しんで！

「田舎の元気は日本の元気。朝市で町を元気にしたか」と力強く話すのは、牛深朝市会会長の田中稔さん。

毎月第3日曜日、ハイヤ通りで同会が開催する「牛深まるごと朝市」には、なまこやウツボのから揚げなどの海産物や晩柑、こっぱ餅とバラエティ豊かな天草産品が並び、これを求めて市内外からのお客さんが訪れている。

この朝市は電器店を営む田中さんが、人出が少なくなった商店街に活気を戻したいと地域の事業者へ呼びかけて始まり、今年で13年目になる。今では参加事業者に加え、20人以上のボランティアが活動を支えている。

天草産品を楽しんでもらうのはもちろん、「おもてなし」を喜んでもらいたい。その思いで魚の塩焼きのサービスや観光案内、ときにはハイヤ踊りを教えることもあるという。新潟県から訪れた夫婦が「親切にしてもらえて嬉しかった」と帰ってから手紙と銘酒をくれたこともあった。

全国に天草産品の良さを伝えるため、東京や石川など市外の物産市に〝出張朝市〟として参加してきた。ほかの地域のものを見てきたからこそ「天草の物はほかに負けん」という誇りを持っている。

今まで休まずこの朝市を続けてきたが、今年初めて新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされ、みんなが辛い思いを味わった。だからこそこれまで以上に活動に対する思いが強くなったという。「落ち着いたらぜひ朝市に来て牛深を堪能してほしか。一緒に出店して町おこしする仲間も募集しとるけんな」と前向きに話す。

地域を愛する思いとお客さんへのまごころ、この両方が牛深まるごと朝市には込められている。

1お客さんとのコミュニケーションを大切にしている 2メダカすくいは子どもに大人気 3なまこの加工品はおすすめですよ　※1・2は2018年9月撮影



World Heritage Topic　問 文化課☎32-6784

# 世界遺産トピック

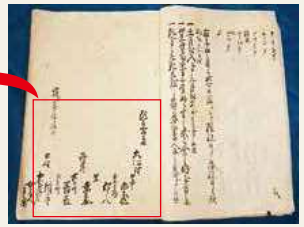
## 古文書から知る潜伏キリシタンの実像

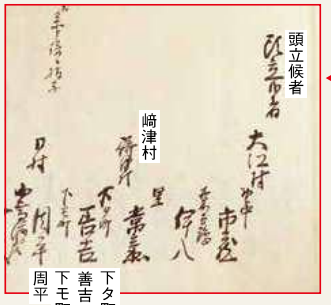
### 【その3　取り調べが始まる】

文化2年（1805）2月、幕府の役人による取り調べの準備が始まりました。当時天領である天草を預かっていた島原藩が、取り調べの責任者に奉行の川鍋次郎左衛門を任命。天草に渡海した早々に村庄屋を集め、調査方針などの説明を行いました。川鍋次郎左衛門は「各村に心得違いの者が怪しい風習・信仰を行っているので取り調べに入る。対象者には何事もありのままを話し、信仰を改めることを誓えば、きっと穏便なお沙汰につながると事前に諭しておくように」と伝えました。本来であれば重い処罰の対象ですが、当初から「心得違い」という言葉を使っていたことから、潜伏キリシタンの取り調べを穏便に済ませたいという幕府側の考えを知ることができます。

翌月には取り調べがスタート。地元庄屋は取り調べしにくいだろうという配慮から、近隣村の庄屋に協力してもらい、﨑津村には久玉組大庄屋の中原慎吾・福連木村庄屋の尾上分平、江月院（大江）の僧侶2人が入りました。信仰組織のリーダー（頭立候者）として事前調査で目をつけていた下タ町の善吉や下モ町の周平、舟津の万吉・勘左衛門などへ聞き取りをしたところ、川鍋次郎左衛門の調査方針もあり、自分たちの風習やオラショ（唱え言葉）、信仰具について、包み隠さず話し始めました。

次回は、彼らが語った風習やオラショなど「天草崩れ」の核心に迫ります。






▲古文書に取り調べの対象となった「頭立候者」の名が記録されている
上田資料館所蔵

## 天草 見どころ図鑑

◀出土した化石

▼天草空港（五和町）

※空港建設当初の写真。ドローン飛行制限区域のため、国土交通大臣の許可が必要です。

佐伊津町や天草空港付近にある標高10～20mの台地は佐伊津層と呼ばれ、約260万年前に川や湖に砂や石がたまって出来た比較的柔らかい地層。天草空港は比較的整地しやすい土地に作られています。地層からはブナの葉の化石が見つかっており、当時の天草が涼しい気候だったことが分かります。

★見どころポイント

みぞか号を近くで見ることができ、離陸時にはパイロットが手を振ってくれることもあります。